
ポリクリを終えて

ポリクリを終えて

歯学科5年 強 瀬 真 衣

「ついにポリクリが始まる。」

いつもなら和やかな教室が少しピリッとした雰囲気包まれているのを感じたポリクリ初日。私は今の自分が友人とはいえ、実際に“人”の口腔内を見て、触って、処置をすることなんてできるのかと不安を感じていました。

しかしいざ実習が始まってしまうと時間はあっという間に過ぎていき、当初の不安はいつの間にか消え、「臨床実習の前に今のポリクリで少しでも多くのことを学ばなければ！」と思うようになりました。

新潟大学歯学部では5年生の10月から実際に病院で患者さんの治療をさせていただく臨床実習があります。臨床実習になれば分からないから、不安だからといってすぐに横の先生や友人に助けを求めることはできなくなります。予めしっかりと診療を想定した準備をした上で患者さん状態を把握して判断することを求められるのです。

つまりポリクリはただの実習の一つだけではなくそのための訓練の場でもあるのです。

具体的な実習の内容としては相互に口腔内清掃をしたり、麻酔をしたりします。

私たちは班員同士で「その角度で器具を当てれば痛くない」「そうされると人によって不快に感じるかも」などと患者さん役になった時に感じたことを共有するようにしていました。このことは今の診療でも生きていると感じます。自分で体験しないと分からないこと、他人に言われて初めて分かること。技術や知識だけでなく、そういうこともこのポリクリの実習から学べたことで臨床実習への不安もほんの僅かですが減ったように思います。今はまだ臨床実習の真っ最中で、ご指導して下さる先生方や未熟な私たちに協力して下さる患者さん、切磋琢磨できる友人、両親など沢山の方々に支えられながら学ぶ日々ですが、卒業してしっかりと恩返しができるように努力していきたいと思います。



ポリクリを終えて

歯学科5年 柳川 万由子

臨床実習が始まり早くも4ヶ月ほどが経ちました。緊張や不安を感じたり、自分自身の未熟さを痛感したりする日々が続いていますが、その中で、ポリクリで学んだことを実践する場面が何度もありました。

新潟大学では5年生の10月から1年間、大学病院にて臨床実習が行われます。ポリクリは、各診療科を回り、臨床実習に必要な知識・技能・態度を習得するための実習です。

ポリクリが4年生までの実習と大きく異なる点は学生相互実習であると思います。4年生までは模型を相手にしていましたが、ポリクリでは同期の学生を相手にして実習を行います。模型とは異なり、口腔内には個人差がありますし、当然痛みも感じます。そのため、実習に対する緊張感はより一層増しました。

相互実習では、医療面接や浸潤麻酔、採血、口内法X線撮影、印象採得など様々なことを行いました。そのなかでも最も印象に残っていることは浸潤麻酔の相互実習です。麻酔を打つのは初めてのことであり、何度も実習書を読んで予習をし、イメージトレーニングをしました。しかし実習当日はとても緊張し、注射を持つ手が震えていたのを覚えています。先生方が丁寧に教えてくださったことで、なんとか実習を終えることができました。また、同期の学生同士でアドバイスをし合ったり、励まし合ったりしたことも実習を進めるに

あたって心の支えになっていたと感じます。

ポリクリの実習で行ったことは、臨床現場で今後私たちが実際に行うことばかりです。ポリクリでより多くの知識・技能を身に付けておくことは、OSCEだけでなく、臨床現場に出るにあたって大切なことであると感じています。これからポリクリが始まる後輩の皆さんには、ポリクリを通して多くのことを学んでOSCEや臨床実習に活かしてもらいたいと思います。

ポリクリ、CBT、OSCEを終え、臨床実習が始まって4ヶ月ほど経ちますが、まだまだ経験が乏しく、知識・技能も不十分であると痛感しています。自分自身がもっと成長できるようにこれからも努力し続けたいと思います。

